

一般演題9-3

当院の高気圧酸素治療業務に関わる多職種連携の取り組み

太田雅文¹⁾ 冠崎大毅¹⁾ 栗山 穰¹⁾
 林 裕一¹⁾ 江夏有紗²⁾ 中村美穂子²⁾
 松橋晴子²⁾ 丹羽康江³⁾

- 1) 医療法人徳洲会宇治徳洲会病院 臨床工学救急管理室
 2) 医療法人徳洲会宇治徳洲会病院 臨床工学救急管理室 看護師
 3) 津山中央病院 放射線科

【背景】

当院は2001年より第一種高気圧酸素治療装置を1台保有し、臨床工学技士が院内の高気圧酸素治療（以下HBO）マニュアルを作成しHBOを行っている。現状、各診療科医師からHBOのオーダーを臨床工学技士が受けて治療を行っている。そのため、臨床工学技士から医師への治療相談や研修医対象としたHBO勉強会等で啓発活動を行ってきた。

一方、病棟の看護師との連携は主に患者のHBO出しや全身状態の相談などが中心でHBOの啓発活動はしていなかった。

【目的】

当院のHBO件数の約6割に関わる整形及び形成外科病棟看護師数名が、昨年の近畿地方学会学術集会の参加を機にHBOに対して関心を持って頂いた。

今回、その病棟看護師から臨床工学技士へHBOの疑問や業務に対する要望があり、病棟看護師目線でHBO業務見直す機会を得た。その活動から業務改善へ繋がった内容をここに報告する。

【活動内容】

まず、整形及び形成外科病棟看護師向けにHBOアンケート調査を行い、HBOの理解度からの患者説明の不安、HBO持ち込み物品の疑問、HBO効果など広く看護師の意見が確認できた。

そのアンケート結果を下にHBO勉強会開催やHBO前所持品・身体表の見直しや病棟HBOマニュアルの作成など行った。

【結果】

HBO勉強会から看護師のHBO理解度は上昇したが、勉強会開催前は当院で最も多くのHBOを受け入れている病棟看護師でもHBOに対する不安は想像以上に多かった。

事前のアンケート調査の情報から当院のHBO前所持品・身体表の項目の追加や持ち込み物品の検討、病棟看護師用HBOマニュアルの作成など、より安全面を強化できた。

また、院内看護研究発表会でこれらの活動内容の発表を病棟看護師が行い、全病棟看護師への周知に繋がる活動も行った。

【考察】

病棟看護師向けのアンケート調査や勉強会開催を行い、看護師目線からHBOに対する不安やHBO改善点などの意見を聞けて有意義であった。また、外来を含む他病棟の看護師向けの勉強会は必須であり今後、定期的に勉強会を開催する必要がある。

今回、最もHBOに関わりのある病棟看護師と臨床工学技士とが協力しHBO業務の検討を行い、結果として業務改善まで行えた。

HBOでは看護師との関わりは大変重要で今回の多職種連携が病院全体の認知向上への一助となると考えた。

【結語】

医師、看護師、臨床工学技士などの多職種の目線でHBO業務を行う事の重要性を再確認できた。今後、定期的に勉強会開催や業務マニュアルの見直しなどを行い、多職種スタッフのHBOチームで更にHBOを安全に行える環境を構築していきたい。

